

学生との対話 in 関東複数大学 2020 報告

2021 年 1 月 7 日

報告者 SNW 矢野隆

学校名：関東複数大学（対話会実施日 2020 年 11 月 28 日）

SNW 世話役：矢野隆

対話形式：Web(ZOOM)

サマリー：

今年度の関東複数大学対話会は、日本原子力学会学生連絡会の主催する「地層処分事業オンライン勉強会」（Web 方式）を兼ねており、学生連絡会からのネット募集に応じて、これまでの対面式対話会では難しかった沖縄を含む全国の大学・高専から 15 名の参加があった。

基調講演に続くグループ対話では「地層処分を進めるにはどうすべきか」を共通テーマに、専攻や学年も異なる学生を交えた自由闊達な対話が展開された。初めて地層処分問題について話し合った学生も多く、若い感性が刺激されたようで、アンケート結果に地層処分問題への前向きな意見がみられた。

1. 対話会の概要

基調講演では、最初に今回の参加者と同年代の 20 代の若者の学びの風景などを収めた NUMO 制作の DVD「今から始めなきゃ！核のゴミ処分 マジ討論～20 代の私たちが考えたこと～」が紹介され、次いで SNW 制作のスライド「高レベル放射性廃棄物対策」を使って放射性廃棄物の地層処分の現状と今後の見通しの説明があった。

それを受けたグループ対話は、全国から参加した学生 15 名とシニア 6 名が 3 つのグループに分かれて行なわれた。討論テーマは 3 グループ共通で「地層処分を進めるにはどうすべきか」であったが、実際の討論の中でそれぞれ身近なテーマを選んでグループ討論が進められた。

A グループでは、「住民理解を深めるにはどのような方法があるか」、「資金の調達をどうするのか」、といったテーマで討論が行なわれ、地層処分について初めて認識した参加学生も複数いることから、放射線への怖いイメージを払拭するための知識の蓄積や学校教育の充実などが必要、との意見統一があった。一方、無関心層に訴えるために SNS が有効では、との意見が出されたが、反対意見もあってはっきりとした意見統一には至らなかった。B グループでは、「農水産物の風評被害」についての議論が行なわれた。風評被害の対応策について議論し、放射線教育が重要であること、情報リテラシー能力を高めること、情報のソースを確かめることなどが挙げられた。C グループでは、「情報発信について」のテーマで議論され、処分場のマイナス面だけでなくプラスの面も伝えること、身近な人から伝えること、などの意見が出された。ま

た、自分の家の近くに処分場ができることになっても賛成するとした学生も複数名いた。

本報告の構成（目次）

1. 対話会の概要	1
2. 日 時	2
3. 場 所	2
4. 参加者	2
5. タイムスケジュール	2
6. 基調講演の概要	3
7. グループ対話概要	3
8. 参加シニアの感想	5
9. 学生アンケートの集計結果	9
10. 別添資料リスト	14

2. 日 時

2020年11月28日（土）13:00～17:30

3. 場 所

ZOOMによる遠隔対話を実施。原文財団参加者は勤務先から、シニアと参加学生は自宅からインターネットで接続。

4. 参加者

[学 生] 15名（うち女性2名）

東工大（2名）、電気通信大（1名）、東京都市大（1名）、
静岡大（3名）、鳥羽商船高専（5名）、富山高専（1名）、
福井大（1名）、沖縄高専（1名）

[原子力文化財団] 2名、長岡正剛氏、清水敬子氏

[シニア] 6名

坪谷隆夫、石川博久、武田精悦、
石井正則、大野崇、矢野隆

5. タイムスケジュール

時 刻	内 容
13:00-13:05	開会挨拶（学生連絡会 岡村会長）
13:05-14:10	SNW 講演：「放射性廃棄物の地層処分の現状と今後の見通しについて」講師：坪谷隆夫

14:20-15:30	グループ討論 共通討論テーマ：地層処分を進めるにはどうすべきか A グループ 学生 5 名、シニア 2 名（坪谷隆夫、矢野隆） B グループ 学生 5 名、シニア 2 名（石川博久、石井正則） C グループ 学生 5 名、シニア 2 名（武田精悦、大野崇） グループ討論の進行役は各グループの代表学生が担った。
15:30-16:35	グループ発表
16:50-17:00	SNW 講評（坪谷隆夫）
17:00-17:30	アンケート記入、財団連絡事項、閉会挨拶、フリートーク等

6. 基調講演の概要

講演テーマ：「放射性廃棄物の地層処分の現状と今後の見通しについて」

講師：坪谷隆夫

基調講演は、オンラインで 20 代の学生中心ということから DVD「今から始めなきゃ！核のゴミ処分 マジ討論～20 代の私たちが考えたこと～」（NUMO 制作、30 分）およびその DVD を補足するためのスライド「高レベル放射性廃棄物対策」（SNW 制作、30 分）で構成し、グループ対話の意見交換を盛り上げることを試みた。

7. グループ討論の概要

A グループ討論概要

参加学生 5 名は原子力、化学、船舶といった専門の違いがあり、かつ、学年層も学部 1 年（相当）から修士 1 年まで広がっていたが、代表学生が適切に進行役を務めたことで、円滑な議論が進められた。

地層処分を進めるにはどうすべきか、との共通テーマでグループ討議が始まった。このテーマは“身近な問題として捉えるために地層処分事業の円滑推進方法を考える”との学生募集要項に添うものであり、実際の討論は、住民理解を深めるにはどのような方法があるか、資金の調達をどうするのか、といったテーマで進められ、以下の意見が出された。

- ・地層処分について初めて認識した参加学生が多い。
- ・放射線への怖いイメージがあり、それを理解してもらうことが重要だ。
- ・住民の理解を得るため学校教育に組み入れることも良い方法だ。
- ・無関心層に訴えるには SNS が有効なのでは？

これに対しては、“興味のない者がわざわざ SNS で調べることはしないのでは？”との反対意見が出され、具体的な合意には至らなかった。

- ・ ガラス固化体を最終処分地に運ぶ海運業者の理解も必要だ。
- ・ 文献調査に伴う交付金の使い道は？
- ・ 安定した最終処分事業のための運営資金はどう考えているのか？ 等

B グループ討論概要

参加学生 5 名は原子力、船舶、情報工学といった専門の違いがあり、かつ、学年層も学部 2 年（相当）から博士 2 年まで広がっていたが、代表学生が適切に進行役を務めたことで、大変円滑な議論が進められた。

まず、地層処分ということにどのようなイメージを持っているか、との進行役からの問いに対して、参加学生より、非常に長い時間の考慮が必要である、他の選択肢がなくやむを得ずこの方法を選択しているのでは、国際的に選択されている方法が日本にも当てはまるのか、人や環境への影響はどの程度なのか、などの発言がなされた。次に、地層処分について不安な点として、放射性物質が漏れる危険性はどれくらいか、一般事項（例えば日常生活）と比較して地層処分は分からないことが多い、農水産物の風評被害のおそれ、などが述べられた。この中で風評被害について議論を深め、風評被害とは誰が被害を受けるのか、目立つような情報をわざと発信しているのではないか、海外から非難されたりして影響を受ける、フェイクニュースが先に出回る、などの意見が出された。

最後に、これらの風評被害への対応策について議論し、以下の有用な見解が得られた。

- ・ 今の大学生が中学生頃には理科でもほとんど放射線などの教育がなかったが、そのような教育をきちんと行うことが重要だ。
- ・ マスコミの影響が大きいので情報リテラシーの能力を高めることが重要だ。
- ・ 情報のソースを確かめることが重要だ。
- ・ 専門家の説明は難しいので一般の人との橋渡し役のサイエンスコミュニケーターのような役割が今後重要になってくる。

C グループ討論概要

このグループの参加学生 5 名に原子力専攻の学生がおらず、情報工学、総合科学、船舶を専攻する学生であった。学年層も学部 1 年（相当）から博士 2 年まで広がっており、また、地層処分についての知識の乏しい学生もいたが、代表学生が適切に進行役を務めたことで、円滑な議論が進められた。

本グループの討論テーマは、「情報発信について」であり、議論の中で、具体的な数字で示すとわかりやすい（被ばく線量など）、（放射線についての）教育が重要、討論ができる場の設定が必要、処分場のマイナス面だけでなくプラスの面も伝えることが重要、身近な人から伝えることが大事、など様々な意見が出された。また、自分の家の近くに処分場ができることになっても賛成するとした学生も複数名いた。

C グループ学生の成果発表では、日本人は放射線・放射能に悪いイメージを持っており、彼らの知識を増やすことが必要であること、情報発信の仕方も大事で

その勉強が必要であること、日常的に放射線と無縁な地域の者は被ばく量等の数値に対するインパクトが強いこと、などの説明がなされた。

8. 参加シニアの感想

(石井正則)

北海道寿都町、神恵内村が最終処分場の文献調査がスタートしたこともあり、地層処分のみならず原子力発電のあり方に関し、長期間の安全性や風評被害など様々な議論が喚起されています。この学習会ではいまや身近となった、これらのテーマを議論することができ、価値ある学習会になったと考えます。

私の私見かもしれませんが、原子力学会学生連絡会の事業としての今回の地層処分勉強会の視点は、大局的に見ると次世代日本を担う学生間の交流を通し、エネルギー問題とそこでの原子力の役割を一緒に考えようというねらいと考えられます。

我々シニアは 21 世紀を通した我が国のエネルギー供給において、原子力がその役割を果たすべく、次世代に原子力文明を継承、深化することを願っています。学生連絡会がこの数年間このような活動を実施してきたことを高く評価するとともに、引き続き学会学生連絡会の活動の柱の一つとして継続、深化させていただくことを期待します。

(坪谷隆夫) …講評を含む

学生連絡会主催の「地層処分事業に関するオンラインワークショップ」に基調講演及びグループ対話に参加しました。このワークショップは、「地層処分学習支援事業」に学生連絡会が応募しているが、SNW の対話会としての活動として協力しています。

開催準備は、学生連絡会の河野奈菜子さんが学業の傍ら精力的に取り組まれ、それを SNW 矢野隆氏がサポートしました。

参加者学生は、全国 8 大学（東工大、静岡大、電通大、沖縄高専、福井大、富山高専、都市大、鳥羽商船高専）から 15 名が参加しました。

グループ対話は、グループ A（参加学生 5 名）に入りましたが、大学における研究費が乏しいということで地層処分事業の必要資金への懸念、放射線への怖いイメージ、原爆の連想から住民の理解に対する懸念、海上輸送であるなら、地元住民の理解を得ていくためにも海運業者の協力を得ることが大事ではないか、情報共有手段として SNS は関心のある人々には効果があるかもしれないがそれ以外の人にはあまり効果が無い、放射線教育などが実施されてこなかったことが問題だが、10 年程度本気で実施すれば若者たちの知識は深まるのではないかなど、参加者から活発な意見が出されました。グループ A の進行役

をされた河野さんがしっかり対話をリードされていました。

「対話イン学生連絡会2020」講評

- ・ 学生連絡会会長岡村氏のもとで河野さんがしっかり準備・運営されており、整然とワークショップは実施されました。
- ・ 高レベル放射性廃棄物問題を初めて聞いたという学生が複数名おり、これからも初めての人とより学びたい人を念頭に置いて勉強できる機会を継続的に提供する重要性を改めて認識しました。
- ・ 市民参加、信頼、情報共有、教育など地層処分に関わるフィンランドの状況をビデオで学んだためグループ対話はポイントを絞って実施されたのではないのでしょうか。また、原発問題と最終処分問題は切り離して考えるとフィンランドの若者のメッセージも心に響いたようです。
- ・ グループ対話に参加して頂いた地層処分問題を専門とされている石川博久氏および武田精悦氏、およびSNWから参加された矢野隆氏を初め石井会長、大野対話幹事に感謝を申し上げます。
- ・ 併せまして、日本原子力文化財団・長岡正剛氏および清水敬子さんにはZOOMのご提供をはじめ運営にご支援を頂いたことを記して感謝を申し上げます。

(石川博久)

私が所属したBグループは、5名のグループで原子力、船舶、情報工学と専門性はいろいろで学年も学部2年から博士2年まで広がっていましたが、進行役が適切に務めたことで、かなり円滑に議論が進められました。

まず、地層処分ということでどのようなイメージがあるかをざっくりばらんに順に述べてもらいました。主な意見として

- ・ 非常に長い時間の考慮が必要。
- ・ 他に選択肢がないのでこの方法をやむを得ず選択しているのでは。
- ・ 国際的に選択されているが日本でもその選択は当てはまるのか。
- ・ 人や環境への影響はどの程度なのか、などの意見が出されました。

次に地層処分について不安な点を述べてもらい、

- ・ 放射性物質のもれがどのくらいの可能性で起こるか
- ・ 日常生活と比較して知らないことやわからないことが多い
- ・ 海産物、農産物への風評被害などがあげられました。

この中で風評被害について議論を深め

- ・ 風評被害では誰が害を受けるのか
- ・ 目立つような情報をわざと発信しているのでは
- ・ 海外から非難されたりして影響を受ける

- ・フェイクニュースが先に出回る、などの意見が出ました。
- それらに対してどのような対応策があるかを議論し、
- ・今の大学生が中学生頃には理科でもほとんど放射線などの教育がなかったがそのような教育をきちんと行うことが重要
 - ・マスコミの影響が大きいので情報リテラシーの能力を高めることが重要
 - ・情報のソースを確かめることが重要
 - ・専門家の説明は難しいので一般の人との橋渡し役のサイエンスコミュニケーターのような役割が今後重要になってくる、などの有用な意見が出ました。
- グループ討論では、シニアから特段のコメントの必要もないくらい活発に議論が進み、時間が足りないくらいでしたが、議論中に内容を記述しながらまとめていったので、発表もスムーズにできたと思います。この討論での内容は今後のシニアの活動にも参考になり有効に反映できると思います。

(武田精悦)

Cグループのテーマは、「情報発信について」だった。学生・院生5名が参加し、地層処分にある程度なじみのある方や全くない方などがおられ、必ずしも出席者全員のバックグラウンドが同じではなかったように見受けられたが、リーダーの方がぶれることなく議論の方向性をしっかり定められていた。

議論の中では、具体的な数字で示すとわかりやすい(被ばく線量など)、(放射線についての)教育が重要、討論ができる場の設定が必要、処分場のマイナス面だけでなくプラスの面も伝えることが重要、身近な人から伝えることが大事、など様々な意見が出された。自分の家の近くに処分場ができることになって賛成するとした方も複数名おられた。

筆者は求めに応じ、説明する時に重要なこととして、結論を明確にし、時には結論を先に話すと相手に伝わりやすいこと、身近な事柄と関係づけて説明すると相手の共感が得られやすいことなどをコメントした。

議論をさらに深めるためにはもう少し時間が必要と感じたが、地層処分を自分事としてとらえ、処分場が自宅の近くにくることになって賛成するとした方々がおられたことが印象的だった。一方で、具体的な数字で示すとわかりやすいというのは専門家ならではのことであり、(筆者の限られた経験からすると)一般の方々はむしろ逆ではないかと思われた。今後自分自身がいろいろな方々に説明する場合、バックグラウンドの異なる相手によって説明の方法や内容を変えることができるように、引き出しを多く準備しておくことが重要だと改めて思った次第である。

(大野 崇)

対話会幹事として準備段階に係ったことから C グループにオブザーバーとして参加した。地層処分は門外漢のため武田シニアに全面的にお願いしたので、対話全体の感想となります。

- ・今回は学生側が取り仕切り、出身学校、専攻、学年の異なるグループを取り纏め対話を円滑に進めたことに感心した。
- ・参加学生は、少なくとも基調講演等シニア提供資料を事前に読み、質問を用意する等事前準備が不可欠。
- ・バラエティーに富んだ学生が一堂に会し、議論する経験は学生にとって今後資するものと思慮する。

(矢野隆)

Web・リモート方式 (ZOOM 使用) で行なわれた関東複数大対話会に世話役として参加しました。この対話会は、原子力学会学生連絡会主催の「地層処分オンライン勉強会」を兼ねるものであり、幌延見学の事前勉強会の位置付けであるため、原子力文化財団の支援を受けて実施されました。全体の司会・進行は学生連絡会が担い、ZOOM の準備・当日のコントロールは原文財団が行ないました。

シニアは基調講演に加えて、グループ討論の場において適切なアドバイスを行ないました。参加学生は、Web 方式の対話であり、学生連絡会からのネット募集にこたえて全国の大学・高専から 15 名の参加がありました。

私の所属した A グループのグループ討論は、住民理解を深めるにはどのような方法があるか、資金の調達をどうするのか、といったテーマで進められました。ただ、これらのテーマは“身近な問題として捉えるために地層処分事業の円滑推進方法を考える”旨の参加学生募集要項に添うもので、実際の議論では以下のような意見が出されました。

- ・住民の理解を得るため学校教育に組み入れるのが良い。
- ・無関心層に訴えるには SNS が有効なのは？
- ・興味のない者がわざわざ SNS で調べることはしないのでは？
- ・ガラス固化体を埋設地に運ぶ海運業者にも理解してもらう。
- ・文献調査に伴う交付金の使い道は？
- ・埋設したあとの (運営) 費用をどうするのか？ 等

当日、幼い子供連れで出勤され ZOOM 対応戴いた方を初め、原文財団や学生連絡会の方々のご尽力に感謝申し上げます。大変ありがとうございます。来年度、コロナ禍の影響が軽減された時期に、この事前学習成果を受けて有効な現地見学がなされることを願っています。

9. 学生アンケートの集計結果（編集 矢野隆）

（アンケートの「理由」覧などに記載された文章は、そのまま転載した。）

（1）回答者 13名

（2）講演の内容は満足のいくものでしたか？その理由は？

（10）とても満足 （3）ある程度満足 （0）やや不満 （0）大いに不満

理由：

- ・海外事例の動画が自分と同年代の学生視点で作られており、具体的かつわかりやすく良かった。配布資料が充実していた。
- ・最初の動画はどこで手に入れられるものなのでしょう。非常によくまとまっていてわかりやすかったので、可能であれば大学祭などで流したいなと感じました。
- ・普段聞くことのできないお話だったのでとても興味深いものでした。特に海外での事例などはテレビやネットでもあまり教えてくれないものだったので、貴重な時間でした。
- ・フィンランドで地層処分を行っていることなんて、知らなかったので、知る良い機会になったと思う。
- ・いままで報道で話題になっているものではあったが、【よくないもの】という印象しかなく詳しくは知らなかったことについてよくわかりました。
- ・ひじょうにまとまった資料で、地層処分の全体像が良く分かった。
- ・全体的な問題の内容について包括的に分かりやすく説明いただけただから。
- ・地層処分に関して自分自身が知らなかった内容などを知ることができ、とても有意義であった。
- ・地層処分について学ぶことができたため、満足しています。
- ・とても貴重なことを聞いて良かったです。
- ・少し時間が足りなくて早足気味だったことを除けば大きく満足できた。
- ・基本的な内容から入ってもらえたため理解がしやすかった。
- ・地層処分の話だけでなく、シニアの意見を聞いたから。

（3）対話の内容は満足のいくものでしたか？その理由は？

（11）とても満足 （2）ある程度満足 （0）やや不満 （0）大いに不満だ

理由：

- ・前半の講演ではうかがえなかった情報や考えをうかがうことができた。
- ・鳥羽商船の学生と話せたのが非常に良かった。
- ・多角的に良い議論ができたため。
- ・いろいろな学科のかたの様々な放射能に対する意見を十分に聞くことができました。

- ・全体的に風評被害など特に社会的な問題についてとても議論ができたから。
- ・ほかの参加者の方(知識のある方)の意見を聞かせていただき満足でした。
- ・様々な意見を聞いて良かったです。
- ・グループワークにおいてシニアの方の意見は、物事のとらえ方をはじめとして今後議論する上でとても参考になった。
- ・ファシリテーターが入ってくれてとてもスムーズに議論が進んだため。
- ・自分では考えつかない考えを知ることができたから。
- ・自分の意見に対し専門家の方にお答えしていただけるものだったのでとても有意義で価値のある対話だったと思います。
- ・オンラインなので対話の際に間の読みづらさが感じられたので、少しやりにくかった。

(4) 事前に聞きたいと思っていたことは聞けましたか？

- (7)十分聞くことができた (3)ある程度聞くことが出来た
(1)あまり聞けなかった (1)全く聞けなかった
- ・グループディスカッション時に質問ができ、質問に対して丁寧に答えていただいた。
 - ・原子力学会でモンロリロナイトの話がされていた北海道大学の先生の話も聞いてみたいと思いました。
 - ・放射能による風評被害について理解を深められた。
 - ・社会的な問題や風評被害についてのことは聞けたが技術的な詳細な部分を聞きたいとも思っていたから。
 - ・ここまで詳しくお話していただけたとは思っていなかったため、とても満足しています。
 - ・医療のインフォームドコンセントや住民投票と民主主義（選挙による直接民主主義）による分断等深い内容が聞けたため。
 - ・ディスカッション時に聞けました。
 - ・緊張していたので聞けませんでした。
 - ・事前に聞きたいと思っていた事を用意していなかった。すみません。
 - ・事前に聞く内容については考えていなかったから。

(5) 今回の対話で得られたことは何ですか？（複数回答も可）

- (13)新しい知見が得られた。
(4)マスコミ情報と今回の対話会情報に違いがあった。
(4)自分の将来の進路の参考になった。
(1)教育指導の参考になった。
(0)特に新しい知見は得られなかった。

(0)その他 ()

(6) 「学生とシニアの対話」の必要性についてどのように感じますか？

(13)非常にある (0)ややある (0)あまりない (0)全くない

理由:

- ・異なる年代の方々からだからこそそうかがえる考えがある。特に、長く原子力業界でご尽力された方々からのお話は貴重だと考える。
- ・確かな知識を持った方々の意見を伺いながら進められたのでよかったですとおもう。
- ・学生の浅い知識だけではなく、シニアの深い専門的知見からの意見が非常に勉強になるため。
- ・やはり、自分よりも圧倒的に知識を持っている人から話を聞くことは勉強になるので。
- ・年配の知見を次の世代へ伝え、議論することは非常に大切だから。
- ・お互いの視点からの考え方を理解し合うことでより深い理解や新しい発想につながると思うから。
- ・私達の知らない知識を持たれており、必要だと感じた。
- ・貴重な話が聞くことができるから。
- ・長年経験されたシニアの方との対話の機会はなかなか無いため、貴重な機会として必要である。
- ・地層処分や原子力発電のあり方は世代や関与する団体で考えが違ってきます。そのため、複数の意見に目を向け多様な視点で問題に取り組んでいくことがこの先の問題に対処する上で世代を超えた対話が重要であると感じます。
- ・シニアの方々は、深い経験等をもとに話をしてくれたためとても勉強になりました。
- ・今回対話してみて、新たな知見をえられたから。
- ・学生の目線とは全く違う新たな目線での意見がたくさん聞くことができるので必要だと思いました。是非機会があればまたお話を聞きたいです。

(7) 今後、機会があれば再度シニアとの対話に参加したいと思いますか？

(4)まだまだ話したりないので参加したい (9)もっと知識を増やしてから参加したい (0)十分話ができたらもういい (0)二度も必要ないと思うからもういい (0)その他 ()

(8) 放射線、放射能に対して伺います。(複数回答も可)

- ① 放射線、放射能はやはり怖い。(2名)
- ② 一定のレベルまでは恐れる必要はないと以前から知っていた。(8名)
- ③ 一定のレベルまでは恐れる必要がないことを講演、対話から理解で

きた。(5名)

④ 放射線、放射能は生活に有用であることを前から知っていた。(10名)

(9) 日本のエネルギー政策では、原子力発電を基幹電力(2030年に発電電力20~22%)とし、今後は省エネ・再エネ利用の拡大や火力の高効率化により可能な限り削減していくとされています。対話も含めてあなたの認識は次のどれですか?その理由は?(複数回答も可)

(2)原子力発電の必要性を強く認識した。削減又は撤退すべきでない。

(7)原子力発電の必要性は分かっていたので、認識は変わらなかった。

(3)原子力発電の必要性は分かるが、やはり危ないから早期に削減又は撤退すべきだ。

(0)原子力発電を止め、再生可能エネルギーを最大限使えばよい。

(2)その他(原子力発電が安全・安心に利用される社会を作りたい。核融合発電)

理由:

- ・原子力発電は効率的であるが、必要以上に増やす必要はないと思う
- ・元より原子力発電に対して反対派ではないため。やはり、火力では大気汚染の問題があるし、再生エネルギーのみでは日本の電力全てを賄うのは難しいと思う。そのため、安定性のある原子力発電という手段はありなのではないかと考える。
- ・CO₂削減には原子力発電が一番適しており、発電効率もよく電気代も安いので、管理さえ徹底すれば一番クリーンなエネルギーであると考えするためです。
- ・日本での発電としては大切だと感じており、それと同時に処理場についても話を進めなければならないと感じた。
- ・火力発電は地球温暖化の進行してしまうため近い将来にはこれに代わる発電方法が必要となってくるであろうと考えられる。その代わりとなるのが原子力となるであろうと思います。
- ・エネルギー政策は各エネルギーのバランスを保ちながら、発展可能な発電を構築していくべきであると考えています。そのため、現状の火力発電過多であることを踏まえるとバランスの観点からは好ましくない状況であることは間違いのないと思います。ですのでバランスを維持するのであれば原子力発電を増やし火力発電の割合を減らし、その後、原子力発電、火力発電ともに減らしていくことが良いと考えています。
- ・人間は愚かにも・崇高にも様々なテクノロジーを駆使して進化していく生き物だと思うので、可能性のある技術である原子力を簡単に諦める必要はないと思う。また、核ゴミを保管・管理するテクノロジーも発展させられると思うため。

- ・地球温暖化や、電気代の面から原子力発電を利用していくことは避けられない。
 - ・原子力は安定したエネルギーを確保することが可能であり、CO₂も排出しないことからクリーンな発電所だと思います。なので、地球温暖化といわれるこのご時世なら原子力を減らすのはこれからの未来を壊す行為になると思います。
 - ・原子力は、目に見えないものなので、危険性がある。
 - ・高レベル放射性廃棄物が出るのは良くないと思うので、環境に良い経済的で安定な発電方法が確立次第やめるべきだと思う。
- (10) 本企画を通して全体の感想・意見などがあれば自由に書いてください。
- ・非常に面白いイベントでした。今後も参加したいと思っております。
 - ・シニアの方とふれあう貴重な経験となったため良かった。
 - ・大変いい機会だったと思います。またこのような機会を準備してい頂ければ幸いです。
 - ・自分の知見を広げる有意義な時間となりました。とても満足です。
 - ・鳥羽商船の方々と話せるのがとても良かったです。大学生以上のコミュニティーでは社会がこうすればよいという意見はでも自分がどうするという意見は出てこなかったけれど、鳥羽商船の学生は自分たちがもっと知識を得ていくことが大事と言っていて、ハッとしました。
 - ・今回は無知な状態にもかかわらずたくさんのお話を教えていただき、とても有意義な時間でした。ぜひ機会があればまた参加させていただきたいです。それと私は商船学が専門なので原子力実験船「むつ」に興味があり、速力や揺れの大きさなどに少し興味がありました。
 - ・原子力学会で地層処分のセッションに行った際に何もわからなかったので勉強しようと参加しました。実際に第一線で研究を行っている教授の話なども聞けたら良いなと思いました。
 - ・もう少し時間がほしかった。再エネについて、安全面や経済面、エネルギーなどさまざまな視点から学ぶことができた。
 - ・シニアの方々からは私にも理解しやすいように言葉を選んで発言して頂いたため、非常に理解しやすかったです。自分は今のところ研究機関を就職先の目標としているため、今後とも原子力の知識を増やし企業内で技術職として働けるように尽力いたします。
 - ・もっと早い段階からシニアネットワークに向けた準備期間を設けるべきです。事前学習を最低2回出来る期間があった方が良いと感じました。
 - ・私自身まだ1年生であり知識も未熟であることから今回の話を理解し切ることができませんでした。

- ・このような方法で対話するのは初めてなので仕方がないが、ルールをより浸透させるべきだったと思う。発言者以外はミュートにしなければならないのに、どなたかの咀嚼音が入っていたり吐息が入っていたりして少し聞きづらかったところがある。

10. 別添資料

(1) 講演資料

- ・スライド「高レベル放射性廃棄物対策」(坪谷隆夫)

以上